

東海大学
松前記念館年報
2024



目 次

ご挨拶 水島久光	2
クローズアップ① オンライン 3D 展示	3
松前記念館概要	4
2024 年度事業報告	4
管理運営事業	
公開普及事業	
リニューアル事業	
その他（広報等 / 東海大学資格教育センターとの連携活動）	
クローズアップ② 充実した教育普及活動を目指して	6
データ	8
学芸業務を担当して 田中実紀	11
こしかたの記 松前記念館のこれまでとこれから 篠原聡	12

ご 挨 拶

東海大学の創立者・松前重義博士は『現代文明論』の中で、現代文明の最も基本的な問題として、平和、人種、階級の3つの課題を挙げています。各地で混迷の度を深める紛争、勢いを増す排外主義、強者が弱者を力で押さえつけようとする動向がはびこる今日こそ、松前博士が示したこれらの課題に真摯に向き合う必要性は高まっています。「世界の破滅をひと握りの人びとに委ねてはなりません。この危機の時代に地球を破滅から救うことができるのは、われわれ一人ひとりの思想の力であり、平和を願う強靱な意志であろうと思うのであります」と松前博士が語る通り、私たち一人ひとりが正しくものごとを見、考え、自らの信念を築き上げなければなりません。

博物館に目を向けるならば、国籍や性別、年齢、障害の有無にかかわらず誰もが楽しめるユニバーサルミュージアムの実践が注目されます。博物館はもともと、館の種類も所蔵品も多種多様なため、多様な民族や環境・文化を理解し、お互いに認め合う共生社会の実現に寄与する可能性を秘めています。表面的な属性によって分け隔てられることのない共生理念の実現は、全ての人々が安心して暮らせる社会や、全ての人の尊厳が守られる平和な社会の実現につながります。昨年逝去された松前達郎前総長も「人々が地球市民として心をつなぎ、人と社会と自然が共生できる新しい文明社会の実現をめざすことこそが本学の使命である」と述べています。

人と社会と自然が共生できる世界の実現のため、松前記念館は、常に新しくあるべく、関係諸機関と連携し、段階的なりニューアルを進めています。ぜひ足を運び、研究・教育活動にご利用いただきたく存じます。



松前記念館館長
水島 久光



特別展のオンライン 3D デジタル展示を導入

松前記念館では 2023 年度から、特別展のコンテンツを 3D デジタルミュージアムとして記録・公開しています。これにより、会期終了後もコンテンツを多くの市民の方々に楽しんでいただくことはもちろん、学芸員を目指す学生が博物館実習などで展示企画に携わる際の参考資料として活用できるようになりました。今後は会期初旬に撮影し、リアル展示と同時にお楽しみいただけるようなデジタルコンテンツを目指します。



● 2023 年度・2024 年の特別展オンライン 3D デジタル展示 Web サイト

※下記アドレスもしくは松前記念館 HP (<http://www.kinenkan.u-tokai.ac.jp/>) よりご覧いただけます。

◎ 2023 年度特別展「受け継がれる祈りの心（東海大学所蔵古代エジプトのヒヒ像とクラウドファンディング）展

オンライン 3D 展示：<https://my.matterport.com/show/?m=yYhhPt7VdU5>



◎ 2024 年度特別展「書物の地層をたどる」展

オンライン 3D 展示：<https://my.matterport.com/show/?m=Yqzp727Q5ra>



◎ 2024 年度ロビー展「世界のたね」展

オンライン 3D 展示：<https://my.matterport.com/show/?m=w3uG8Knr9T9>



松前記念館概要

松前記念館は 1983 年に建学 40 周年記念事業の一環として創設されました。2004 年には神奈川県教育委員会から「博物館相当施設」の指定を受け、それ以降は建学の理念を継承する記念館の役割とともに大学の未来を切り拓く大学博物館として「歴史と未来の博物館」の愛称のもと、博物館資料の収集保管、調査研究、公開普及活動に取り組んでいます。2024 年度も特別展「書物の地層をたどる」やロビー展「世界のたね」の開催や神奈川県立平塚盲学校との連携、博物館・美術館との連携による教育普及活動を展開しました。

2024 年度松前記念館事業報告

2024 年度は①管理運営事業（博物館の基本的活動）、②公開普及事業（特別展の開催、博物館実習の受け入れ、大学コレクションの活用、自治体・博物館連携等）、③リニューアル事業（施設の再整備等）の事業を実施しました。以下、それぞれの主な事業内容を記します。

①管理運営事業

管理運営事業は、収蔵品の管理運営を中心に、松前記念館の博物館活動の全般的な運営を担う事業です。

- ・資料収集：学園史・デンマークに関連する資料、参考図書等の購入
- ・調査研究：付属図書館所蔵の貴重本に関する調査研究
- ・公開普及：松前達郎先生追悼コーナーの設置、特別支援学校等との連携事業の実施

②公開普及事業

公開普及事業は、特別展の開催を中心に、松前記念館の展示、教育普及活動の全般的な運営を担う事業です。

1) 展示

常設展の開催

- ・1F 常設展：情報通信の技術史
- ・2F 常設展：学園史展示（学園の源流をたどる、先駆けであること、総合大学への道）

特別展の開催（1F 企画展示室）

- ・「書物の地層をたどる」展

会期：2024 年 4 月 15 日（月）～ 2025 年 3 月 16 日（日）

会場：松前記念館 1F 企画展示室

オンライン 3D 展示：<https://my.matterport.com/show/?m=Yqzp727Q5ra>



- ・「世界のたね」展

会期：2024 年 9 月 19 日（木）～ 2025 年 2 月 17 日（月）

会場：松前記念館エントランスロビー

オンライン 3D 展示：<https://my.matterport.com/show/?m=w3uG8Knr9T9>



- ・踊る指たち（手の世界制作— 5）

会期：2025年1月19日(日)～2月1日(土)

会場：ギャラリー青羅(銀座)

※神奈川県立平塚盲学校との連携事業の成果展

2) 博物館実習の受け入れについて

・授業科目「博物館実習2」(松前記念館における館園実習)

実習生人数：22名(春学期8名,夏期集中6名,秋学期8名)

実習期間：春学期・夏期集中・秋学期

※実習時間：2～4限を基本(実践実習5日間を含む計10日間程度)

春学期：実施日【月曜日・火曜日】4名/4名 各2～4限(最終日は2～3限)×5日

夏期集中：実施日【9/9,10,11,12,13】6名 各2～4限(最終日は2～3限)×5日

秋学期：実施日【火曜日・金曜日】4名/4名 各2～4限(最終日は2～3限)×5日

※別途、実践実習(5日間程度)を実施

・授業科目「博物館実習1」(学内実習)

川崎市市民ミュージアムとの連携(博物館レスキュー事業)

サマーセッション及びウィンターセッション

③リニューアル事業

リニューアル事業は、2023年度から3か年計画で継続している事業で、松前記念館の施設設備の改修等を担う事業です。

- ・1F 普及室(旧喫茶室)の運用開始(付属見学オリエンテーション、博物館実習1等)
- ・新収蔵庫(地下)の資料棚の設置
- ・ロビー(地下)及び元クロークの壁面クロスの張替え、LED照明の設置

④その他(広報活動/東海大学資格教育センターとの連携活動)

「学芸員を目指す学生たちが体験型イベント『大学生と一緒に展示を楽しもう!』を実施しました。

<https://www.u-tokai.ac.jp/news-campus/996409/> (東海大学 HP ニュース 2024.7.12)

「資格教育センターでは『彫刻を触る☆体験ツアー 2024』を開催しました」

<https://www.u-tokai.ac.jp/news-campus/1030222/> (東海大学 HP ニュース 2024.8.22)

「横浜市歴史博物館で『笛吹ボトル制作ワークショップー古代アンデスの音にさわるー』を開催しました」

<https://www.u-tokai.ac.jp/news-campus/1045468/> (東海大学 HP ニュース 2024.9.11)

「三井記念美術館で『五感を研ぎ澄ます 鑑賞体験ワークショップ』を開催しました。

<https://www.u-tokai.ac.jp/news-campus/1045844/> (東海大学 HP ニュース 2024.9.11)

「平塚盲学校の児童・生徒を対象に造形ワークショップを実施しました。」

<https://www.u-tokai.ac.jp/news-campus/1086188/> (東海大学 HP ニュース 2024.10.16)

「『“触れる”アート GINZA2025』を共催しました」

<https://www.u-tokai.ac.jp/news-institution/1234849/> (東海大学 HP ニュース 2025.02.19)

「シンポジウム『彫刻をさわる時間ー触覚にとって美とは何かー』を開催しました。」

<https://www.u-tokai.ac.jp/news-campus/1236844/> (東海大学 HP ニュース 2025.02.20)



充実した教育普及活動に向けて

松前記念館では資格教育センターの学芸員課程の博物館実習の一環として実践実習に力を入れています。2024年度は三井記念美術館をはじめ、これまで継続してきた平塚盲学校や横浜市歴史博物館、はだの歴史博物館、秦野市などとの連携による実践実習を実施しました。

●実践実習の主な連携先

- 触覚を研ぎ澄ます 体験鑑賞ワークショップ(三井記念美術館)
- 公開普及、展示解説、ワークショップ運営(横浜市歴史博物館との連携)
- 彫刻メンテナンス(秦野市文化スポーツ部文化振興課との連携)
- 企画展の展示協力(はだの歴史博物館との連携)
- 博物館で日本画を描こう!(TOKAI グローカルフェスタとの連携 2024)
- 造形ワークショップの運営(平塚盲学校との連携 資格教育センター連携企画)
- レプリカ制作(文化社会学部アジア学科山花京子先生との連携企画)
- 彫刻を目と手で触って楽しもう(東京・北区文化振興財団との連携実践実習)



触覚を研ぎ澄ます 体験鑑賞ワークショップ(三井記念美術館との連携)



笛吹ボトルワークショップ 古代アンデスの音に触る(横浜市歴史博物館との連携)



平塚盲学校との連携 造形ワークショップの運営 (資格教育センターの地域連携事業)



彫刻メンテナンス (神奈川県の高校生、地域住民と一緒に)



博物館で日本画を描こう! (TOKAI グローカルフェスタ 2024 との連携)

DATA [データ]

(1) 収蔵品 (※令和 6 年度文部科学省社会教育調査)

① 人文科学資料	区分	実物	標本	模型 (模写)
	(1) 古美術資料			
	(2) 近代美術資料			
	(3) 考古学資料			
	(4) 民俗資料			
	(5) 民族・人類学資料	100		
	(6) 歴史資料	1,000		
	(7) その他の資料	9,000		
	図書	3,000		
	写真	2,000		
その他				
② 自然科学資料	区分	実物	標本	模型 (模写)
	(1) 動物資料			
	(2) 植物資料			
	(3) 地学資料			
	(4) 理化学資料			
	(5) 天文資料			
	(6) その他の資料	200		50
	図書	1,000		
	写真			
	その他	200		

(2) 来館者数

2024 年度 松前記念館来館者数

2024.4	1,353
2024.5	1,701
2024.6	1,774
2024.7	1,470
2024.8	1,106
2024.9	1,773
2024.10	1,518
2024.11	2,837
2024.12	2,080
2025.1	1,100
2025.2	1,185
2025.3	208 (2025/3/4 時点)
合計	18,105

(3) 2024年度 主な見学・授業利用等

2024.4	工学部電気電子工学科(桑畑先生/庄先生他)、語学教育センター(田口先生)、新入職員(法人) 附属甲府高校(230名)、附属浦安高校(410名)、附属静岡翔洋高校(440名)
2024.5	工学部応用化学科(浅香先生)、国際学部国際学科(島崎先生)、資格教育センター(島先生) 附属高輪台高校(450名)、附属望星高校(60名)
2024.6	工学部応用化学科(浅香先生)、資格教育センター(島先生/丸島先生)、広報メディア学科(小河原先生) 体育学部(松本先生/小河原先生)、デンマーク大使館一行(柴山先生/HSCO)、菅生高校(90名)
2024.7	SPC(スチューデント・プロモーション・センター) 北濱先生)
2024.8	
2024.9	附属相模高校中等部(150名)、附属相模高校(140名)
2024.10	体育学部武道学科(天野先生)、資格教育センター(篠原先生)、神奈川県立荏田高校(40名)、横浜清風高校(45名)、県立藤沢西高校(40名)
2024.11	資格教育センター(丸島先生)、マレーシア・スリ・ベスタリ私立学校一行(国際担当)、附属大阪仰星高校(160名)、湘南学園(20名)、柔道ニュージーランドチーム一行(山口次長)
2024.12	柔道アメリカ・オーストラリア・ベルギーチーム(山口次長)、日々輝学園高校(33名)、附属高校保護者一行(30名)、立花学園(20名)
2025.1	体育学部武道学科入門ゼミ(中矢先生)
2025.2	秦野市立鶴巻中学校(121名)
2025.3	



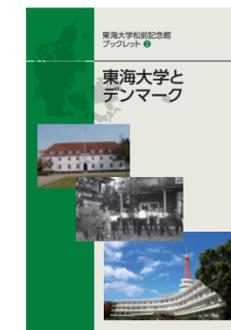
附属高校生による展示見学

(4) 決算報告 (2025年3月4日現在)

2024年度は①管理運営事業、②公開普及事業、③リニューアル事業の3つの事業別に予算を執行しました。

①管理運営事業 予算：1,360,000円 執行状況：1,300,168円(96%)

- 主な内容は以下の通りです。
- 東海大学松前記念館ブックレット②『東海大学とデンマーク』の刊行
- 図書館不要展示ケースの移設
- 古代エジプト資料のレプリカ制作
- 調査研究のための書籍、資料等の購入
- 事務管理・展示消耗品等
- 学芸員研修(文化財IPMコーディネーター)
- 臨時給(学芸補助)
- 日本博物館協会会費・神奈川県博物館協会会費



東海大学松前記念館ブックレット②

②公開普及事業 予算：1,200,000円 執行状況：1,025,276円(85%)

- 主な内容は以下の通りです。
- 松前記念館年報の刊行
- 教育普及に関する図録の刊行
- デジタル3D展示の製作
- 資料収集、購入費
- 展示関連消耗品
- 教育普及事業の謝金
- HPのリニューアル更新



展示会「踊る指たち 手の世界制作-5」図録

③リニューアル事業 予算：4,000,000円 執行状況：3,988,458円(100%)

- 主な内容は以下の通りです。
- ・新収蔵庫のスチールラックの設置



新収蔵庫の様子

学芸業務を担当して

田中 実紀

2022年から臨時職員として松前記念館の学芸業務の一部をサポートしています。2024年度は、特別展「書物の地層をたどる」の解説パネルを制作しました。同特別展の「3. 書物から文化の重なりをたどる」では東海大学所蔵の《源氏物語系図》、《源氏物語》(伝嵯峨本)を展示



田中学芸員が担当した展示ブース

しました。2024年に放映された大河ド

ラマ『光る君へ』でも話題になった『源氏物語』ですが、みなさんは、主人公紫式部の「まひろ」という名前がドラマのために創作されたものであることを知っていますか？『源氏物語』も『光る君へ』も同じ創作物です。その意味で、やや脚色された『光る君へ』も含め、書物に記されたものを展示すること自体が、書物の地層をたどることにつながるのではないのでしょうか。



三井記念館で開催した「触覚を研ぎ澄ます」ワークショップ

この特別展では、展示物の全てに点字のキャプションをつけました。キャプションは点字テプラで制作し、内容は資料や書籍のタイトルとその著者名にとどめ、ガラスケースに透明なテープ状のキャプションを設置しています。2024年8月のオープンキャンパスでは、神奈川県立平塚盲学校の生徒が親御さんと来館してくださいました。視覚障害者向けの対応として資料を解説しながら観覧してもらうとともに、一部資料については展示ケースから出して、触って鑑賞していただきました。点字キャプションを用意しておいてよかったと思います。

同じく、2024年9月からエントランスロビーにて開催した「世界のたね」展ではキャプションに点字を併記しています。また、エントランスに館内マップを設置しました。マップには平面図に該当する壁などに凹凸を付け、点字による説明も記載しました。かねてより点字に興味を持っていた私は、本年度、学生の頃からの念願だった平塚盲学校との連携に参加する機会を得て、現在、点字を学んでいます。当館における私の使命として、今後は常設展示の点字による解説の拡充や、ユニバーサル・ミュージアム(誰もが楽しめる博物館)の実現を目指しています。

(松前記念館学芸補助)

こしかたの記●松前記念館のこれまでとこれから

篠原 聰

1983年に大学創立40周年記念事業の一環として開館した松前記念館は、2004年に神奈川県から博物館相当施設の指定を受け、「東海大学 歴史と未来の博物館」の愛称のもと、大学博物館としての活動にも力を入れてきました。当館と私のご縁は、2004年に遡ります。この年から松前記念館で博物館実習生の受け入れを始め、そのお手伝いをさせていただきました。その後も数回、特別展のお手伝いをさせていただきました記憶がありますが、20年以上前のことなのであまり覚えていません。2006年に特任講師として東海大学に採用されてからは、松前紀男館長と難波克彰先生のもとで、松前記念館の学芸業務を担当してきました。

覚書までに当時のことを思い出すと、初代館長は昨年逝去された松前達郎先生で、相当施設になる前の2003年8月～2004年3月末までは繋ぎ役として難波克彰先生が館長をつとめ、2004年4月から松前紀男先生、その後、4代目が再び松前達郎先生で5代目が山田清志先生、6代目が橋本敏明先生、そして7代目が現職の水島久光先生です。この間、松前記念館付として佐保吉一先生、菊川久夫先生、大島宏先生などの協力を得て、特別展にも力を入れてきました。過去の特別展の一覧は以下の通りです。

- | | |
|--|---|
| 2003年●建学の源流に学ぶ(プレ展示) | 2014年●平和への道 東海大学のスポーツによる国際貢献 |
| 2004年●情報と文化～無装荷ケーブルからFM東海
東アジアにおいて東海大学は何をしてきたのか? | 2015年●平和への道 東海大学と松前重義の国際文化交流 |
| 2005年●EUはトルコをとりこむことができるか
～ヨーロッパと小アジアの文化の同質性と異質性 | 2016年●はじめは望星学塾 ～教育の原点を見つめ直す |
| 2006年●人づくりの歴史～共生へのチャレンジ
建学の理想と実践 | 2017年●基本は現代文明論 教育の根幹を見つめ直す |
| 2007年●キャンパス再発見～山田守の建築思想
情報と技術～FM東海が問いかけたものとは? | 2018年●現代文明論の未来 ～創立100周年を目指して
世界のたね展 |
| 2008年●現代文明と世界観の変遷①
現代文明と世界観の変遷② | 2019年●松前重義とオリンピズム スポーツは人類平和の先駆者である |
| 2009年●大学創設期の群像～東海大学の教育の源流
東海大学の教育の源流～世界一幸せな国をつくった教育 | 2020年●手の世界制作(エントランスロビー展) |
| 2010年●昭和史における松前重義 ～東海大学の建学の理念を探る | 2021年●水、呼吸、命のかたち(手の世界制作-2) |
| 2011年●いま、問われる科学・技術 ～震災を通して私たちが考えなければならないこと | 2022年●古代アンデスの音とカタチ
かたちの生命(手の世界制作-3) |
| 2012年●希望を星につなげ ～教育の目的を問う | 2023年●古代エジプト 受け継がれる祈りの心
インナービジョンズ(手の世界制作-4) |
| 2013年●平和への道 東海大学の教育による国際貢献
(東アジアを中心に) | 2024年●書物の地層をたどる
世界のたね(エントランスロビー展)
踊る指たち(手の世界制作-5)
※ギャラリー青羅にて開催 |

組織

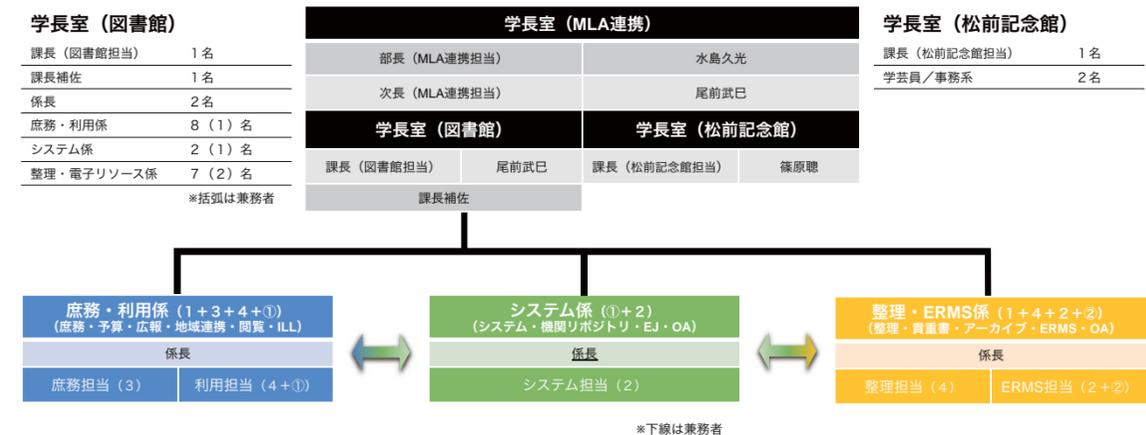
名 称：東海大学松前記念館 (https://www.tokai.ac.jp/educational_facilities/museum/)

館 長：水島 久光

事務室長代行：篠原 聡 (学芸員)

※ 2025 年度より MLA 連携が本格的にスタートすることに伴い、松前記念館の運営は学長室 (松前記念館担当) が引き継ぎます。

2025年度学長室組織図 (MLA連携) (案)



2013 年からはユニバーサル・ミュージアム (誰もが楽しめる博物館) の実践や自治体連携にも力を入れてきました。例えば屋外彫刻のメンテナンスイベントである「彫刻に触る☆体験ツアー」は今年で 10 年目を迎え、学生をはじめ、県内の高校生や自治体職員や市民も参加するようになりました。2020 年からは神奈川県福祉子ども未来局共生推進本部室との協働による「ともいきアートサポート事業」にも取り組み、神奈川県立平塚盲学校や伊勢原支援学校などの特別支援学校との連携事業も展開し、当該事業に関する展覧会も開催しています。

コロナ禍の 2020 年、21 年の特別展は取り止めとなり、エントランスロビー展を開催するにとどめましたが、2022 年からは大学コレクションの活用を視野に入れた文理融合の教育研究成果の公開が本格的に実現はじめました。特別展を担当してくださった吉田晃章先生 (文学部アメリカ文明学科准教授)、山花京子先生 (文化社会学部アジア学科) にこの場を借りて御礼申し上げます。また、図書館長も兼担されていた水島館長は、附属図書館所蔵の貴重本や珍しい資料などを紹介する「書物の地層をたどる」展を担当されました。展示の際には図書館の平井久美子さんや浅利典江さんにお世話になりました。この間、2023 年～2025 年度までの 3 か年にわたる松前記念館リニューアル計画が水島館長から発表され、地下階の新収蔵庫の整備や地上階の旧喫茶室の改修を進めてまいりました。最終年を迎える 2025 年度には、登録博物館の申請も計画しています。博物館法の改正に伴い、これまで地方公共団体や一般社団法人・財団法人等に限定していた博物館の設置者要件が改められ、法人類型にかかわらず登録できるように変更されたからです。

2025 年度から松前記念館の運営は、これまでの松前記念館事務室から、学長室の松前記念館担当に引き継がれることとなりますが、これまで通り従来の松前記念館の理念を継承しつつ、博物館活動のさらなる拡充を目指します。2025 年 4 月からは湘南キャンパスの中央図書館も装いを新たに再スタートし、水島館長が掲げる MLA 連携も本格的に運用がはじまります。MLA とはミュージアム、ライブラリー、アーカイブズの頭文字で、それらの連携を意味します。すでに附属図書館の尾前武巳さん、学園史資料センターの中西祐悟さん、椿田卓士さんとも何度か打ち合わせの場を設け、これからの連携について夢を膨らませています。松前記念館のこれまでの蓄積を活かしつつ、今後は図書館や学園史資料センターとの連携を強化して、学生をはじめ教職員の皆様にも親しみをもって楽しんでもらえるような大学博物館を目指したいと思います。

(松前記念館学芸員 / 事務室長代行)

東海大学松前記念館 (歴史と未来の博物館) 所報 2024

2025 年 3 月 31 日発行

〒 259-1292 神奈川県平塚市北金目 4-1-1

TEL. 0463-63-4550 (内線: 2232)

Mail info.kinenkan@tsc.u-tokai.ac.jp

URL <http://www.kinenkan.u-tokai.ac.jp/index.html>

